

生活条件の異なる複数対象における推定食塩摂取量および尿 Na/K 比の評価

1 行空き

株式会社 兵庫県臨床検査研究所 臨床検査部

○切原慶治、寺尾ちえみ、森川貴道、平松聖史、藤田宜子

1 行空き

【はじめに】

近年、食塩摂取量に加え、カリウムとのバランスを反映する尿 Na/K 比が注目されている。一方、これらの指標は個体内変動が大きく、単回測定による評価には限界がある。本検討では、推定食塩摂取量（以下、食塩摂取量）および尿 Na/K 比（以下、Na/K 比）の個体内変動を評価し、その特徴を検討した。

【対象・方法】

食塩摂取量は田中式により算出した。検討 1 では、1 名を対象に約 1 か月間、食塩摂取量および Na/K 比を測定し、その推移を評価した。検討 2 では、性別、年齢、勤務時間の異なる 5 名を対象とし、1 週間（1 名は 8 日間）、早朝第 1 尿、昼食前および夕食前尿を採取して食塩摂取量および Na/K 比を測定した。食塩摂取量は 6 g/日未満、Na/K 比は 2 未満を目標値として評価した。

【結果】

検討 1 の症例では、平均食塩摂取量は 7.91 g/日、平均 Na/K 比は 2.15 であり、いずれも目標値を上回った。日間変動を認めたものの、全体として食塩摂取量が多く、カリウム摂取不足を示唆する傾向がみられた。検討 2 については以下のような結果が得られた。

表 1；食塩摂取量（g/日）

対象者	N 数	平均	SD	CV (%)
A	21	11.08	1.82	16.42
B	21	8.65	1.50	17.34
C	24	9.62	1.97	20.48
D	21	9.84	1.05	10.67
E	21	10.48	1.97	18.80

表 2：Na/K 比

対象者	N 数	平均	SD	CV (%)
A	21	3.54	0.92	26.1
B	21	3.14	1.60	51.0
C	24	7.32	6.69	91.4
D	21	4.10	2.60	67.7
E	21	4.42	2.06	46.6

【考察およびまとめ】

本検討では、Na/K 比は同一個人内でも大きく変動し、単回測定による評価には限界があると考えられた。一方、複数回測定による平均化は測定値の安定化につながる可能性が示され、既報やガイドラインとも整合した。また、食塩摂取量の CV と Na/K 比の CV は必ずしも一致せず、Na/K 比は食塩摂取量とは異なる側面を反映する可能性が示唆された。さらに、複数回平均では変動の縮小を認め、複数回測定の重要性が示唆された。

《連絡先 TEL 079-267-1251》

※枠線は、抄録集には印刷されません。